

ロシア語における動作の反復の指標について

小川 暁道

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

0. はじめに

本稿ではロシア語における反復の状況語と動作との関係について扱う。

ロシア語の時間表現はまず直接時間 *прямое время* と相対時間 *относительное время* とに分類される。¹ 直接時間はさらに単一動作の時間 *время единственного действия* と分割時間 *разделительное время* とに分けられ、反復を表す時間はこのうちの後者に当てはまる。

筆者は以前、ウクライナ語の反復表現について考察した。² ウクライナ語には接頭辞 *шо-* + 生格、接頭辞 *шо-* + 対格という、動作の反復の時間を表す副詞がある。(例えば「毎年」という副詞には *щороку*, *щорік* 二つの形式がある。前者は *рік* 「年」の生格形に、後者は対格形に接頭辞 *шо-* 「毎〜」を伴った形式である。) 生格形と対格形の両方の形式で用いられる名詞に限られており、またこれらの形式と意味の対応は必ずしも厳密ではない。例えば接頭辞 *шо-* + 生格の形式が時には均質な動作の単純反復、時には動作が繰り返されるたびに動作・結果の性質が量的な変化を伴う増幅反復を表し、接頭辞 *шо-* + 対格の形式の場合も同様である。そしてこの現象の数量的な調査によって、反復の両方の形式を持つ名詞では接頭辞 *шо-* + 生格は単純反復、接頭辞 *шо-* + 対格形は増幅反復を表す傾向があるという結論に至った。

Щороку вона приїжджає в Україну... (День 紙 2001 年 1 月 10 日)

毎年彼女はウクライナへ来る。

I, напевно, відтепер ставатиметься щораз частіше. (Львівська газета 紙 2003 年 9 月 16 日)

そして、きっと今から毎回もっと頻繁になっていくだろう。

ウクライナ語においてこのような傾向を示しながらも存在する形式と意味の対応のゆれがロシア語でも見られるかどうか、また、ロシア語の反復時間表現における形式と意味の対応やそれぞれの反復の性質を、特に増幅反復の意味要素に注目しながら記述し、さらに

¹ Всеволодова, Потапова (1973) p.4 以下, ВП1973 とする。直接時間は時間区分内に動作が存在する時間 (例: *пришел утром* 「来たのは朝だ」), 相対時間は示された時間区分外に動作が存在する時間 (例: *пришел к вечеру* 「来たのは夕方ごろ (までに) だ」) を表す。

² 小川暁道「ウクライナ語の接頭辞 *шо-* による時間表現—単純反復と漸次的変化およびその使用における地域的差異の数量的分析—」2004 年 日本ロシア文学会研究発表会

は今後のロシア語・ウクライナ語の対照研究の土台となるデータを収集し整理することが本稿の目的である。

1. 先行研究

ロシア語の時間表現について ВП1973, Всеволодова1975³では、反復時間は単純分割時間と増幅分割時間とに分類され、それぞれの時間を表す形式が名詞別に記述されている。概略を以下に示す。単純分割時間とは「持続する完結されない動作が、質的・量的変化を伴わずに繰り返される」反復動作である。以前拙稿で単純反復という反復動作に分類した。それに対して増幅分割時間は「発展する動作の過程が一つの総体として観察され、この変化の質が繰り返される時間区分と相関する」反復動作であり、増幅反復に該当する。

単純反復を表す形式についての記述を以下に名詞ごとに略述する。

- 1) 名詞 час「一時間」、день「日」、неделя「週」、месяц「月」、год「年」、век「世紀」は、前置詞 из+生格+前置詞 в+対格 (изо дня в день など)、主格+前置詞 за+造格 (день за днем など) という形式で用いられる。
- 2) 曜日や昼夜の意味を持つ名詞 понедельник「月曜」や утро「朝」などは前置詞 по+複数与格 (по ночам など) の形式で用いられる。
- 3) 季節や昼夜の意味を持つ名詞 утро「朝」や весна「春」などは前置詞なしの複数造格 (вечерами など) の形式で用いられる。
- 4) 名詞 время「時」、пора「時」、момент「瞬間」は主格+前置詞 от+生格 (время от времени)、前置詞なしの単数または複数の造格 (временами, порой, моментами)、前置詞 по+与格 (по временами) の形式で用いられる。
- 5) さまざまな時間の名詞は定語 каждый+対格 (каждый день, каждую ночь など) の形式で用いられる。

増幅反復を表す形式は以下の通りである。

- 1) 名詞 день「日」、год「年」、месяц「月」、час「一時間」は主格+前置詞 от+生格 (год от года など)、前置詞 из+生格+前置詞 в+対格 (из года в год など)、前置詞 от+生格+前置詞 к+与格 (от месяца к месяцу など)、前置詞 с+複数造格 (с годами など)、助詞 что ни+主格 (что ни день など) の形式で表される。しかし、名詞 месяц「月」、час「一時間」の使用はまれである。
- 2) さまざまな時間の名詞は前置詞 с+定語 каждый+造格 (с каждым днем) の形式で用いられる。

先行研究の記述をまとめると、増幅反復時間を表す形式が多様な名詞は день「日」、год「年」、месяц「月」、час「一時間」で、それ以外の名詞で増幅反復を表すものは前置詞 с と定語 каждый を用いられ、また単純反復・増幅反復両方を表す形式は前置詞 из+生格+前

³ ВП1973 は時間表現を便覧的にまとめたものであるのに対し、Всеволодова1975 はより理論的な側面が補われている。本稿では形式的分類は便覧である ВП1973 に、分類基準や形式が表す時間区分の解説は Всеволодова 1975 に拠る

置詞 **в** + 対格 (名詞 **день, год, месяц, час**) のみである。

単純反復・増幅反復を表す形式のゆれが存在するかどうかを明らかにするために、時間の意味を持つ名詞の中から特に名詞 **день** 「日」, **год** 「年」, **месяц** 「月」, **час** 「一時間」を用いた時間表現を見てゆく。

これらの名詞が対応する形式は、単純反復に分類されているものでは前置詞 **из** + 生格 + 前置詞 **в** + 対格, 主格 + 前置詞 **за** + 造格, **каждый** + 対格の 3 通り, 増幅反復に分類されているものでは主格 + 前置詞 **от** + 生格, 前置詞 **из** + 生格 + 前置詞 **в** + 対格, 前置詞 **от** + 生格 + 前置詞 **к** + 与格, 前置詞 **с** + 複数造格, 助詞 **что ни** + 主格, 前置詞 **с** + 定語 **каждый** + 造格の 6 通りである。

2. 調査方法・項目

チュービンゲン大学ロシア語コーパス⁴のうち、ウプサラコーパスを使用した。検索キーワードは、名詞 **день** 「日」, **год** 「年」, **месяц** 「月」, **час** 「一時間」を用いて反復を表すそれぞれの形式, すなわち「**изо дня в день**」, 「**из года в год**」, 「**день за днем**」, 「**год за годом**」などといったように、4つの名詞が用いられる単純反復と増幅反復を表す形式 3+6-1 (前置詞 **из** + 生格 + 前置詞 **в** + 対格は単純反復・増幅反復の両方を表すため) 通り, 定語 **каждый** と結合したこれらの名詞の対格形 4 通り, 計 36 項目である。定語 **каждый** については、主語および動詞の対格補語となっているものをその後手作業で排除し、時間の名詞とともに状況語として出現しているもの (**каждый день** など) のみを選定した。

前章で挙げた **Всеволодова1975** の単純反復と増幅反復の定義に従い、形式ごとに現れる反復の性質を分類した。

3. 数量データ

形式ごとの単純反復と増幅反復の出現数を下の表に示す。

		単純反復	増幅反復	総数
単純 反復	定語 каждый + 対格	65	0	65
	主格 + 前置詞 за + 造格	4	0	4
	前置詞 из + 生格 + 前置詞 в + 対格	20	5	25
増幅 反復	主格 + 前置詞 от + 生格	1	10	11
	前置詞 от + 生格 + 前置詞 к + 与格	1	1	2
	前置詞 с + каждым + 造格	0	15	15
	前置詞 с + 複数造格	0	9	9
総数		91	30	121

⁴ <http://www.sfb441.uni-tuebingen.de/b1/en/korpora.html>

表上段の三重線から二重線までが ВП1973 で単純反復のみを表すとされる形式、二重線に挟まれた中段は両方を表す形式、表下段の二重線から三重線までが増幅反復のみを表すとされる形式である。用例数の少ないものについてはこのデータだけでは論じることができず、また両方の反復を表す形式である前置詞 из+生格+前置詞 в+対格の出現数のうち単純反復は 20 例、増幅反復は 5 例とこのデータ内に限っては単純反復を表す場合が多いと言えるが、さらに多くのデータに当たらなければならない。

今回の調査で得られたデータを見る限り、出現数が 0 であったものについては「存在しない」と断言することはできないが、名詞 день「日」、год「年」、месяц「月」、час「一時間」では増幅反復を表す形式とされる主格+前置詞 от+生格、前置詞 от+生格+前置詞 к+与格が単純反復を表す場合もあることが確認された。

Это было дело , за которым стояло , переплетаясь , множество решений и поступков , - и не стояло а двигалось , меняясь год от года .

Каверин, В., Двухчасовая прогулка, в кн. "Двухчасовая прогулка"

これは、その向こうには多くの決定と削除が絡み合いながら立ちはだかっている、しかも立ちはだかっているのではなく年々姿を変えながら前進している仕事であった。

: армейская группа генерал-полковника Гота , усиленная подошедшей 17-й танковой дивизией , продолжала быстро продвигаться к Сталинграду , к окруженной 6-й армии Паулюса , от часа к часу ожидавшей сигнала на прорыв из кольца навстречу танковым дивизиям , деблокирующим ее.

Бондарев, Ю., "Горячий снег"

接近した第 17 戦車師団によって増強されたホト大将の軍団は、スターリングラードへ、封鎖を解きつつある戦車師団へ向かっての包囲網からの突破を知らせる信号を刻一刻と待ち望んでいた、包囲されたパウルス第 6 軍のもとへと前進を続けていた。

前置詞 с+複数造格 (с годами) と共起する動詞は、9 例中 9 例が増幅反復であったが、完了体動詞と共起している例がさらに 9 例あった。Всеволодова1975 によれば増幅反復動作を表す動詞は不完了体のみ⁵であり、またこの形式は反復のほかにも単一の動作の完遂を表す時間を表すため、表中の集計には含まれていない。また、образоваться「形成される」のように両体動詞も 1 例現れ、反復か動作の完遂かの判定が困難だったため表中には含めなかった。これらの完了体動詞と反復動作の関係は次章で述べる。

単純反復を表す「定語 каждый + 対格」、増幅反復を表す「前置詞 с+каждым+造格」に関しては、形式と意味の対応にウクライナ語でみられるような大きなゆれはないと考えられる。

⁵ Всеволодова1975. p.204

4. 反復と動作の関係

先の章で触れた動詞のアスペクトに関しては、コーパスの検索において前置詞 c+複数造格の形式で用いられている用例のうち、完了体動詞が出現しているものが9例あった。

До сих пор я полагал , что наши с ним игры и походы в лес , путешествия по болотам за жуками - все это с годами вовсе сотрется из памяти трех-, четырехлетнего ребенка .

Гранин, Д., Обратный билет, в кн. "Однофамилец"

今まで私はわれわれの遊びや森への散策, 甲虫を探しての沼々への旅—これら全てのことは年を経るにつれて3,4歳の子供の記憶からすっかり消えてしまうものだと思っていた。

Но и это тоже оставалось тайной , постичь которую - с годами он понял - ему не дано .

Кожевникова, Ж., Внутренний двор, "Новый мир", 1984:03

しかしこのこともまた彼には解くことが許されていない—そのことを彼は年々理解したのだが—謎のままであった。

これらの с годами にはさまざまな日本語の訳が可能であるが、いずれも動作の完遂の時間を表し、Всеволодова1975では「動作の到達への漸次性」⁶という意味特徴で説明されている。前置詞 c+ 複数造格という形式は単一動作と反復動作の双方に使用され、さらに動作の完遂の時間と増幅反復の相関が指摘されている。過程が一つの総体とみなされ、反復されている前後の時間区分とつながりを持つ（前の時間の延長線上に新たな要素が上乗せされる）という増幅反復の性質にも漸次性という特徴が含まれ、「動作の到達への漸次性」と共通する要素を持っていることが分かる。

増幅反復は時間区分が回を重ねるごとに動作の要素が漸次的に変化し、先立つ時間区分よりも後続する時間区分においてその度合いが高まっている。変化している要素自体は「量的」なものであったり「質的」なものであったりするが、直線上で表すことのできる度合いの増加・減少という観点から質的な変化を「量的に」換算してとらえられているといえる。

上記の前置詞 c+ 複数造格と共起する不完了体動詞によって表される反復と、完了体動詞によって表される結果への到達には、時間の状況語以外の増幅反復を表す語彙的な指標の差異が見えてくる。

Более того , с годами их становилось больше - по мере исследований в руках ученых оказывались все новые факты , которые требовали и не всегда находили объяснения .

Ледниковые эпохи - где же причина?И. Усеинова."Знание-сила", 1989:03

それ以上にそれらは毎年ますます多くなって行き、説明が要求されるが常に説明のつか

⁶ Всеволодова1975. p.87

ない新しい事実が研究者による研究で明らかになっていった。

И при этом наше отставание с годами увеличивается - вот что , быть может , самое тревожное .

Принадлежит народу, В. Чурбанов. "Огонек", 1988:09

そしてその際われわれの遅れは毎年増大し、これこそがおそらく最も不安なことであった。

これらの文中には、時間の状況語以外の指標として比較級や動詞の語彙的意味に含まれる変化が現れている。比較級の場合は、そこに含まれる「より～」という意味要素によって連続した過程における変化、すなわち増幅反復が表されている。動詞によって増幅が表される場合、用いられている動詞は、расти「育つ」、скудеть「乏しくなる、衰える」、увеличивать(ся)「大きくする(なる)、増やす(増える)」、уменьшать(ся)「小さくする(なる)、減らす(減る)」、снижать(ся)「低くする(なる)」、наращивать「増やす(増える)」、сокращать(ся)「短くする(なる)、減らす(減る)」、остывать「冷える」などである。これらの動詞にはувеличивать(ся)やуменьшать(ся)のように比較級から派生した「より～にする(なる)」といった意味を持つ動詞と、растиやсокращать(ся)のように動詞の語彙自体が連続した過程における変化という意味要素を持ちうるものがある。

この反復の指標については、他の形式によって表される増幅反復においても同様の特徴が見られる。

И с каждым днем она все отчетливей сознавала , что пропадает .

Трифонов, Ю., Другая жизнь, в кн. "Собрание сочинений в 4-х томах"

そして彼女は破滅しつつあることをより明確に毎日自覚していった。

それに対し、単純反復を表す文にはこのような増幅の指標はなく、等質の動作がただ反復されているのみである。

Вот для нее я не посторонний человек , каждый день от нее доброе слово слышу .

Тендряков, В., Чрезвычайное, в кн. "Избранные произведения в 2-х томах"

彼女にとって私はよそ者ではなく、毎日彼女から有益な言葉を聞いている。

Я каждый день катался тут на лыжах .

Белов, В., Рассказы о всякой живности, в кн. "Диалог"

私は毎年ここでスキーをした。

単純反復と増幅反復の意味特徴の違いに注目すると、増幅反復は「単純反復+ α 」と考えることができる。反復動作における単純反復と増幅反復の対立においては、この α を特

徴表示項として増幅反復が有標になっている。

増幅反復の意味要素の表現形式への現れは以下のようにまとめられる。

1 比較級

- 1) 副詞比較級
- 2) 形容詞比較級

2 動詞の語彙的意味

- 1) 比較級から派生した動詞
- 2) 連続した過程における変化の意味をもつ動詞

5. まとめ

頻度数の調査ではロシア語の反復時間表現においてウクライナ語に存在するような規模での意味と形式の対応のゆれや、以前のウクライナ語の調査では見られた、ある形式は単純反復を表し、別の形式は増幅反復を表すという傾向は見られなかった。今回収集したデータ内において、ロシア語では単純反復と増幅反復を表す形式はウクライナ語に比べてはつきりと分かれていると言える。しかし、これは用例数が限られた中での結論であり、仮説の域を出ない。今後データをより広範囲に収集することによってこの仮説を裏付けたい。

反復動作の内容面では、先行研究の記述を整理し実際の用例を見て再検証した。前置詞 *c+* 複数造格という形式のもとで完了体・不完了体両方の動詞のアスペクトが見られたが、先行研究ではこの形式が表す単一動作の完遂時間は漸次性という要素を持つという記述がなされている。この漸次性はその他の形式で表される増幅反復においても見られる要素であり、前置詞 *c+* 複数造格によって表される単一動作の完遂の要素と増幅反復の要素とに共通するこの漸次性が、単純反復と増幅反復の違いを決定付ける要素であることを指摘した。対立という観点から見ると、単純反復と増幅反復では増幅反復が有標であることは先行研究の記述からも明らかなことであるが、その意味要素に着目すると増幅反復=単純反復+ α と示すことができ、この α が漸次性という特徴表示項となり、増幅反復が有標項になっている。

この意味要素の状況語以外の指標は、比較級または動詞の語彙的意味で現れる。比較級は副詞比較級と形容詞比較級の双方が現れ、また動詞の語彙的意味は比較級派生の動詞と動詞自体が連続した過程における変化の意味をもつものが見られた。コーパスにおける調査で形式と意味の対応にほとんどゆれがないことから、時間の状況語がすでに増幅という要素を持っていることになるが、それでもなお上記のような形式的な指標が観察された。

時間の状況語に使用される名詞の調査対象を広げ、またさらに詳細な形式的・意味的種類を行うこと、さらにはそれによって得られる資料によって本研究をロシア語・ウクライナ語の対照研究へと発展させることを今後の課題としたい。

参考文献

- Всеволодова, М.В., Потапова, Г.Б. 1973. *Способы выражения временных отношений*. М. [本文中ではВП1973と略記]
- Всеволодова, М.В. 1975. *Способы выражения временных отношений в современном русском языке*. М. [本文中ではВсеволодова1975と略記]
- Грищенко, А.П. та ін. 2002. *Сучасна українська літературна мова*. К.
- Русановский, В.М. Жовтобрюх, М.А., Городенская, У.Г., Грищенко, А.А. 1986. *Украинская грамматика*. К.,
- Синявський, О. 1967. *Норми української літературної мови*. Па.
- Shevelov, G.Y. 1963. *The Syntax of Modern Literary Ukrainian*, The Hague
- Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in philosophy*. Ithaca, New York.
- Xrakovskij, V.S. (1997): Semantic types of the plurality of situations and their natural classification. In: ibd. (ed.): *Typology of Iterative Constructions*. München, Newcastle, 3-64.
- 影山太郎 1990: 『動詞意味論—言語と認知の接点—』, くろしお出版, 東京.

チュービンゲン大学ロシア語コーパス

URL <http://www.sfb441.uni-tuebingen.de/b1/en/korpora.html>

ウクライナ語紙

День

URL <http://www.day.kiev.ua/>

Львівська газета

URL <http://www.gazeta.lviv.ua/>